

(45)

婦人の教育について [2]

フランソワ・プーラン＝ド＝ラ＝バル著 [1674年]

仲島陽一訳

第一対話（承前）

ティマンドルが言った。「私の仲間にはいったある伊達男が近頃ものした絵のことを思い出します。」彼は言った。「真理について、または学問について語るならば、それは自然の長女で、自然から美や魅力を分け与えられたのであり、そのおかげで万人に崇められるはずであるように、私には思われます。その輝きはとても鮮やかなので、日の光としか比べられません。日光同様に輝かしく明るいものです。私達の魂を照らし、強くし、楽しませます。」この騎士はさらに言った。「しかし私はそれを、私達が分配も対抗も認めることができない、私達の婦人たちとはおおいに違うと思います。それは求めるすべての人に等しく伝えられ、彼等の間に、違う道筋で求めるとき以外、嫉妬も論争もひきおこしません。人がため息をついたり泣いたりするのでなければ満足しない、あの誇り高く気難しい美女たちのようではありません。その手の美女たちは、可哀そうな恋人の心配すべてに、好意的なまなざし一つで十分報いていると信じるのですが。真理や学問は、その友の間で低劣なことや卑しいことを何も望みません。影響を及ぼしても拘束したり隷従させたりすると言われるのを聞きません。やさしくてきさくです。最初に自ら歩み寄ります。本心から行われる最初の誠実な申し出には、ただちに最大の行為で報います。最後に、近づくすべての人を受け入れ、彼等のほうでも幸いにそれも受け入れるときには、彼等を平凡さから引き出し、俗衆の知らない程度の高尚さと幸福をもたらしてくれます。」

ユラリがまた言った。「もし私が男性なら、この婦人〔学問と真理〕が私の第一の恋人で恋人たちの手本であればと思うでしょう。」

(46)

スタジマックはまた言った。「あなたは男性でありませんが、だからといってこの婦人を求められないということはありませんよ。彼女は女性にとっては男性、男性にとっては女性で、男女どちらであっても何の不都合ありません。私はこの点であなたが仲間になっても好敵手になっても大喜びです。」彼は続けて言った。「それにいっそう携わるために考えてほしいのは、真理の利害関心はあなたの利害関心と切り離せず、真理の武器があなたの影響力を広げるのに必要であるのと同時に、真理がその影響力を確立するためにはあなたの魅力を必要としているということです。あなたは、美しい考えがご自分のような美女の口から出ればどんな効果を上げるかご存知です。あなたが、女性にとって自然な飾りと魅力をまとめて出現させれば真理の効果がどんなか、判断してください。

「たとえ真理の利害があなたに触れないとしても、少なくとも私達の利害に敏感であってください。そしてあなたの助けがとても必要な場合に、私達を見捨てないでください。あなたはその実例によって、すべての男性の胸中に高貴な競争心を生れさせられます。また自然によって自分たちに有利が与えられたと信じる虚栄心を得ている分野で、女性のほうがまさっているのではないかと心配して、彼等は自分たちが開発している学問の完成に、より熱心により無私に専念するようにさせられます。

「ああ、あなたやお仲間たちは、私達〔男性〕の学者に、とても親切にしてほしいものです。あなたがたの一団に加えさせることで、彼等が知っていることを文明化する見事な手段を与えられるでしょうし、あなたがたの会話に参加することで、彼等には欠けていてあなたにとっても固有なあのやさしさを伝えてくれることでしょう。あなたがたをこんなに愛らしくしているあの粹で誠実な様子を、知らず知らずに彼等に吹き込むでしょう。そして彼等の頑なで粗野なところを取り除いて、社交界でちゃんと受け入れられるようにするでしょう。

「あなたがたには、十分に評価し尽くせないような利点が戻ってくるでしょう。あなたがたを避けて逃げていく、あの荒々しくて野蛮な精神を良識へと戻すことで、彼等の感情を変え、こんなに長い間軽蔑してきた女性に対して賛嘆

せざるを得なくさせるのですから。だから勇気を出し、ご自分が女性の身体に男性の精神〔才気〕を持っていることを示してください。」

ソフィがほほえんでまた言った。「お手柔らかに。あなたは私達を公正に遇した後で、不正を加えています。私達は男性と同じだけ精神〔才気〕を持っていることを思い出してください。」

スタジマックがまた言った。「失礼しました。先入見はとても強いので、私は思わずそれにひきずられてしまいました。」彼は付け加えて言った。「だからこの正当な平等に応えてください。そして真理が、徳や美と同様にあなたがたに配分されていることを示してください。男性たちの不正と盲目とをくじいてください。そして、侮辱の言葉であった『女っぽい』という語を快く逆手にとって、名誉の言葉になるようにしてください。今までは女性に『男性的精神を持っている』ということで喜ばせ褒めていると思われていたのですが、反対に男性を、女性の精神を持っているということで褒めるようにしてください。」

「習慣によってあなたがたは身体に関することで男性に服従していることで十分で、さらに精神にかかわることで彼等に服従することはないのではありませんか。この〔精神という〕神聖な部分が、あなたがたの容貌によって打ち負かされる人々〔男性〕によって打ち負かされるのは恥ではありませんか。だから、私達に対する二重の勝利をもたらしに来てください。そしてあなたがたの魅力が甘美な勝利で心情をひきつけているあいだに、あなたがたの思想の美しさと精神を賞賛へと活気づけてください。」

ユラリは彼に答えた。「あなたの慇懃な勧告には、私が与らないことがたくさんあります。」彼女は付け加えて言った。「私にはたいして経験がありませんし、現に若いのですが、それでも、学問はそれを持つ者にとっても大きな助けになることを認識できるほどには、十分な経験を持っているように思われます。なぜなら結局、もし学問によって男性が自分自身を、また他の人々を導くようにできるならば、もし学ばされるならば、私達女性にとっても男性に劣らず有用であろうからです。私達女性の条件における辛くて厳しいものに耐えさせるものが得られるだけではありません。もし女性がちゃんと教育を受ければ、結

(48)

婚はよりよいものになり、家庭はよりよく運営され、こどもたちはよりよく育てられるでしょう。私達は駄弁を言うために監督の耳元に永遠にいらなくてもよくなるでしょう。男性たちが互いに相談するのと同様に、女性たちは別の女性たちに相談するでしょう。女性修道院長が修道女を指導するでしょう。母が娘を教えるでしょう。また男女ともに自分自身を知るように自分自身を律すること、物事はたぶん悪くなることはないでしょう。

ソフィが続けた。「私はずっと前からその考えでしたが、一度、ユラリがいま話した主題に関して、スタジマックと私でともに話し合ってから特にそうです。そのときあなたが私に注意してくれて忘れないのは、昔は教会に女性執事がいたことです。聖パウロがケンクレアイの教会の執行者をフェベと呼んでいることです⁸⁾。彼がテモテに、60歳以上のやもめを選ぶように命じていることです⁹⁾。なぜならそれは女性に関する事柄のためですし、女性執事は男性執事とほとんど同じ儀式で叙品されていました。」

スタジマックはまた言い始めた。「私が思い出して同時に言いたいのは、アレクサンドロスの聖クレメンスが証言していることです¹⁰⁾。それは使徒たちが女性たちを伴っていたということで、それは他の女性たちの傍らで自らの職務に役立てるためにであり、またそうして主の教理を男性がはいれない場所にももたらすためでもあります。機会が現れた以上さらに言いたいのは、ある公会議の証言によって、また偉大なオリゲネス¹¹⁾の証言によることです。彼は少女と婦人のために学校を営んで最高度の学問を教えていました。その女性たちは他の女性たちの教育のために聖職に何かしら与っていたようにみえます、と言いましょう。」

ティマンドルが尋ねた。「そうした訓育を再興すべきだと主張しているのですか。」

スタジマックは答えた。「まったくそうではありません。私はあのうるさい古代崇拜者たちとは違います。また私は、過去の時代に行われていたことが現在の規則とされるべきなのは、本質的な事柄においてだけであるとさえ思います。こうした証言を報告するのは、ただ女性が以前は、あなたが想像する以上

に、キリスト教徒の間で敬われていたことを示すためだけです。もしもユラリが望むものを設立するようになって、新奇なことではないでしょう。また彼女のようなまっすぐで公正な精神を人々が持つときには、古代の研究をしていなくてもとても有能とみなされた人々と同じ見解になり得るということを、同時に示すためです。

「私が望みたいのはただ一つのこと、女性が男性と同じだけの配慮をもって教育されるということです。それはとても有益ですし、誰の害にもならないでしょうから。それはまた新しい提案でもありませんが、なぜならずっと昔に実践されたのですから。またニュッサのグレゴリウス¹²⁾が姉の聖マクリナ¹³⁾の生涯のなかで報告するところでは、彼女は聖書に関して男のように育てられ、ペトロ¹⁴⁾や偉大な聖バシリウス¹⁵⁾のような自分の弟たちを教えたのですから。聖ヒエロニムス¹⁶⁾は、聖書を勉強させたのでなければ、また旧約聖書を原文で読めるように何人かでヘブライ語を学ばせたのでなければ、女性を導くことはほとんどなかった、とあなたはよくご存知です。もしプリスキラとアキラが、今日の女性のようにしか宗教に関して知らなかったならば、彼女たちは偉大なアポロを導くことはなかったでしょう¹⁷⁾。また著名なマルセル¹⁸⁾が一人の男性指導者の意見と小教理問答に甘んじていたら、彼女は異端者たちをくじくことができないし、聖書の最も大きな難点に関して、教皇とローマの聖職者たちとの諮問を受けはしなかったと、判断されましょう。」

ティマンドルは言った。「あなたは聖ヒエロニムスを味方に持っていることを遺憾としないでしょ。う。なぜならあなたが彼についていま報告したことのほかに、彼は女性にとっても有利に語り、ときには男性よりも好みさえしたように思われるからです。」

スタジマックが答えた。「たとえこの教父が正反対の見解を持つとしても、女性について私が言ったことがやっぱり真実ですが、〔現実〕に〕評判よく重みある一人の人と同意見でまったく安心せざるを得ません。私が自分たちのこの一致において彼をいっそう評価させるものは、彼においてと同様私においても文句をつけられるのが、女性に関してあまりに公然と意見を表明したというこ

(50)

とです。それほどいつもこの点では熱中しました。また私がこの教父と共通するのは、この点で私について人がどう考えてもすべてを軽んずるということです。」

ユラリはスタジマックに言った。「私が間違っているのであれば、あなたは私がみとる見解において、あの献身の精神を女性たちに吹き込む男性ではなく、彼女等はそれにとても満たされてそのつとめ全体をなすのです。」

スタジマックはまた言った。「献身ということで何を理解しておられるか、わかりません。数種類の献身があるからです。もしもあなたが意味しているのが、神が私達に命ずることを遅滞なく喜んで行い、また研究や他の実務をも離れて、イエス・キリストが私達に教えた慈善の業を思慮深く実践するようになる、規律あるキリスト教的熱意であるなら、私はその献身を、唯一必要なこととして、女性だけでなく男性にも真っ先に勧めるでしょう、と宣言します。なぜなら学問全体は主に徳に向けられなければならないのですから。」

ユラリが答えた。「献身ということで私が意味しているのはそういうことではありません。私が言っているのは、私にごく近縁のある婦人がとても先入見を持っていて、家事以外のことを話すと罪になると思っているようなたちのもので、またある種の恣意的でどうしてもよいことの順守からなっています。それを博士、学者、役人、なんらかの専門職や似たような仕事を行っている、ほとんどすべての理性的な男女がいたところで免れていることを私は見えますが、自分たちもそれを免れている説教者は彼等を非難して、他の人々ほどキリスト教的でないと言うのです。」

彼女は続けた。「私は彼女を敬う義務があるので、そのふるまいに何もけちはつけないでしょう。また各人は自分の行為と思いつきについて自由です。もしも私達、私の姉妹と私とを彼女の行為と思いつきに服させようとしなければ。また私達がとても読書好きなことに関して、好奇心が強いのは娘らしくない、女性は祈祷書と針仕事だけにとどめなければならない、と彼女を導く者を通じて私達に千回も言わせるのでなければ。」彼女は付け加えた。「もしあなたがいま言われたことを、またあなたの本にあることを知っていたら、それをお

おいに使って、この人を立て直し、彼が自分の聖務日課書以上のことは知らないことをわからせるでしょうに。」

スタジマックが続けた。「こうした種類の人々は、とても許せるものにみえます。自分が知っていることを言い、できることをするのです。女性は男性にずっと劣っていると信じています。学問が何であるかを知らず、したがってそれがあなたがたに必要であるかどうかまだできるかどうかわからないのです。そしてそうでないと聞いているのですから、彼等があなたがたに関して、自分たちの知識と、自分達の確信に従った指導することに驚くことはありません。しかしながらもし起こっていることを彼等が偏見に妨げられずに自分の目でみるならば、もし自分たちの聖務日課書をよく理解するならば、あるいはそれを朗唱するときに、自分たちがそのかわりを務めている何人かの偉大な女性聖人たちの生涯に注意するならば、女性のなかにも男性と同じだけの才気と高邁とを観察するでしょうに。そしてたとえば聖カタリーナ¹⁹⁾、聖テレジア²⁰⁾、聖マクリナがとても有能であって自分たちの行為を遂行できたことに注目して、最も高度な知識も私達男性に劣らずあなたがた女性にも手が届くものだとは判断するでしょう。」

ユラリは答えた。「私達の善人は今や我に帰るだけでよいのです。彼の聖務日課書に戻らせましょう。それでも私に、女性にできるのは糸紡ぎだけで女は勉強しなかったと言うならば、糸紡ぎは彼のような人向きのもので、彼は昔起こったことをよく知っているかどうか疑わしいし、私達のような知識のない単純な人々をだますのはたやすいと答えましょう。」

ティマンドルは彼女に尋ねた。「でもどうしてあなたはその婦人と話題のその男性の影響下にはいらなかったのですか。」

彼女は答えた。「たぶん一部分は私の意に反してそこに入らせることが望まれていたからです。そこから私を最も遠ざけたのは、私以上に恵まれてはいない女友達の一人が、母親に知られずに書物を得る手段をみつけて、いつか私にフランス語の新約聖書を貸してくれたということです。したがって私はこれしか本を持たなかっただけに、またそれを読むことが禁じられていただけに、そ

(52)

れだけいっそう熱心に読みました。キリスト教的完全性に関する事柄は他のところ以上に私の心に触れました。そこには、女性が宗教において男性と別様に生きなければならないとはみえませんでした。男女とも同じ行為に対しては同じやり方で罰されたり報われたりするであろうし、学問は誰にも禁じられていないとみてとったので、私は結論しました。私達からこの本を遠ざけようと思う人々は、利害が無知かによってそうするのだと。彼等が用のときだけ教会で見られる博士や学者の実例に従い、馬鹿なことで退屈しのぎをするよりも、何か善くしっかりしたことを学ぶために、私室でなり仲間でなり彼等をまねて時を用いるほうがよいであろうと。」

スタジマックがまた言った。「こんなにしっかりした反省ができるあなたの精神を開発しないならば、残念なことでしょう。」

ティマンドルはソフィとユラリに向かって答えた。「結局のところ、あなたがたは二人ともしっかりしたところと良識を、女性たちのために示しているので、十分に、私は〔男女〕平等に与しますし、女性をつまらぬ務めで才能を空費させるのではなく、もしも男性と同等の配慮で教育するならば、スタジマックが主張していることはみな真実だとわかるでしょうが。」彼は続けて言った。「しかし、今の状態では、どんな方法でそうできるのかわかりません。なぜなら、外国語を学ぶのに少なくとも七、八年が必要で、たぶん婦人はその信じられない労苦に耐えられないでしょう。そのほかに、彼女等が私達のようにそれを学べる場所がないですから。」

ユラリが言った。「あなたが示されていることで、長い間私は苦しんでいます。私はいつも立派な事柄を知りたいという極度の願望を持っていました。しかしそのために必要とみてとる労苦が私を脅えさせますし、自分の好奇心を満たせることに絶望しています。」

スタジマックは言った。「有能になるために必要な苦労は、想像されるほど大きくありません。また私は研究で被った疲労に関して反省した後では、その道は短くできるように思われます。特に、専門職に入ることを免れているので、現在はそのためにしか必要ではない外国語を学ぶことも免れてよい女性にとっ

てはそうでしょう。」

ユラリが言った。「なんですって。私達はギリシャ語もラテン語も学ばずに最も立派な知識を得られるのですか。」

スタジマックは答えた。「あなたがたはフランス語の本を使ってそうできます。私達の言語〔フランス語〕は今日では散文でも韻文でも、精神を完成させるのに期待しうる最も見事なものをすべてを提供してくれているので。」

ソフィが言った。「実際、私はここに、仏訳されたラテン作家の大部分を持っています。」

スタジマックがまた言った。「またそのほかに私達は、言語においても書かれている事柄においても、古代人と同じくらいすぐれた近代の作家たちを持っています。」²¹⁾

「学校に行かせないで、どうやって私達を教えられるのでしょうか。」とさらにユラリが尋ねた。

スタジマックが答えた。「学校に行かない大部分の男性を教えるのと同じ方法です。なんでも学びたいことがあるならば、書くことや踊ることを教えてくれる人がいるように、先生を持たないことがあるでしょうか。」

ティマンドルが言った。「もっとずっと便利なこともまたできるでしょう。すなわち諸学を完全に教わった女教師がいて若い少女を教えることであり、また彼女たちのもとで女性家庭教師たちが形づくられるようになるのは、私達〔男性〕の先生が大学や他のところでもかたちづくられるのと同じになります。」

ソフィが答えた。「ティマンドルが言ったことから、考えることが一つあります。私達はまったく若いときに修道院に入れられます。それが預かる寄宿生を教える配慮を持つ修道女達を、また自分たちが女教師になるような他の修道女たちを教育することに、いま妨げになるものがあるでしょうか。」

ティマンドルは答えた。「私が思い描いたことを確立するのはそんなに難しくはないでしょう。必要なのは二つだけでしょう。一つは、身分あり尊敬を受けている二、三人が自分の娘をちゃんと教育させることで、それで十分に、修道女たちの一つの著名な家や個人的な女教師が始まり、他の人々への実例を与

(54)

えるでしょう。もう一つは、よい意図を持った男性が二冊の本をつくることです。その本の一冊は、女教師を形成するのに役立ち、本の助けて自ら勉強できる年頃の女性たちに、私達〔男性〕が個人のふるまいのために必要な分を、学問においてわずかな時間で進むためにとらねばならない道を記すものです。もう一冊は、彼女等が教えるようになるこどもたちに教育するためにその後守ることができるような方法を教えるものです。

ソフィは言った。「私はその計画に大賛成です。」

ユラリが付け加えて言った。「私もまたそれをとてもいいと思います。」

ティマンドルはスタジマックに言った。「しかし、女性にそんなに肩入れしているあなたは、こうした奉仕をしようと思わないでしょうか。そうしそうな様子ですし、ご本のなかで新しい方法を約束していることを思い出します。」

ソフィがひきとった。「女性の弁護をする者は女性の教育もする必要があり、それによって彼女等は、自分たちの利点と名誉のために、有能な男性がなし得ることをしたということで、その人に恩義をこうむることになります。また彼女等は、あなたがこの方法で、女性たちが自分自身で自らを弁護し、かつては他人の筆を必要とした利害関心を自分自身の知識で支えられるようにしてくれただけに、それだけいっそうあなたに感謝するでしょう。」

ティマンドルは言った。「そしてあなた〔スタジマック〕が少なくとも彼女等の敬意を受けるのは確実です。」

スタジマックはまた言った。「うちあけて言えば、私はその計画を考えたことがありますし、いつかそれを実行する希望を失っていません。」

ユラリは言った。「機会は逃してしまうには美しすぎます。少しは勉強したいとずっと願っていた私に、どこまでも恩を施して私が必要としている導きに関してあなたの思想に参加させてください。そして私の懇願に彼のを加えるように、ソフィに頼みます。」

ソフィが答えた。「スタジマックは、慇懃で親切な男性で、知っていることを秘密にしたりはしませんから、私と私の友達のためにこうした恵みを与えてくれるものと思っています。」

スタジマックがまた言った。「あなたのような真価ある婦人と語るのをおおいに喜ばしく、得にもなります。だから疑うことはありません。ユラリの計画のためにあなたが望むようなことは、私には何でもする用意があります。また、あなたたちは、よりしつかりしたことについて言われるようなことを理解するのに十分な精神を持っていないと思い込むような女性ではないので、私はそれにいっそう気乗りしているのです。」

ソフィが言った。「私が思うには、私達〔女性〕には自分たちが思っている以上の力があります。また自分たちに何ができるか知らない人々は、実行できるはずの多くのことを企てません。そして確信しているのですが、最大の天分を持ち最も多くものを書いた人々も、はじめは女性のようなものだったのであり、まだ力を試していないことも時代には、後に成し遂げたことが実行できると思わなかったのです。」

ティマンドルが言った。「スタジマックは、言っていることをとてもうまく説明し、はっきりさせるすべを知っているので、あなたたちほど知的でない婦人たちに語らなければならないようなときでも、わからせることができるでしょう。」

ソフィが付け加えた。「知的な人々について語ってください。なぜなら精通することを望みますから。」スタジマックもまたそれを彼に頼んだので、一同は三日後に再会することを約した後で、とても満足して別れた。

〔第一対話終わり〕

【訳注】

8) 「ローマ書」(16:1)

9) 「テモテへの手紙一」(5:9)

10) アレクサンドロスの聖クレメンス (Clemens, c. 150-211(6)) はギリシャの神学者。この「証言」は『雑纂 [Stromateis]』第三巻から。

11) オリゲネス (Origenes, c. 186-254(5)) はギリシャの神学者。クレメンスにプラトン主義を学ぶ。聖書の寓意的解釈を試みた。この「証言」は『ヨハネ福音書注解』からか。

(56)

- 12) ニュッサのグレゴリウス (Gregorius, c. 331-396) 東方教会の教父。ニュッサの司教。カトリックの正統信仰、特に三位一体論に哲学的基礎を与えた。
- 13) 聖マクリナ (Macrina, c. 327-c. 379) はニュッサのグレゴリウスや聖バジリウスらの姉で彼等に影響を与えた。
- 14) ペテロ (Petros, 341/5-392) は、兄グレゴリウスを継ぎ、375年より司教。
- 15) 聖バシリウス (Basilios, c. 330-379) はニュッサのグレゴリオスの兄。修道院の「バシリス」会則を制定。カエサリア司教。アリウス派を抑圧した。
- 16) 聖ヒエロニムス (Hieronymus, 340(-50)-419(20)) はキリスト教の教父。聖書をラテン語に翻訳した。ローマで教皇秘書を務め、ベツレヘムで学校を開いた。
- 17) アキラ (Akylas) はポントス生まれのユダヤ人。旧約聖書のギリシャ語への翻訳者の一人か。プリスキラ (Priskilla) はその妻。パウロとコリントで同居し、エフェソスまで同伴した。そこでアポロと会った(使徒18:26)。アポロ (Apollo) はアレクサンドリア生まれのユダヤ人。アキラとプリスキラから学んだ。
- 18) マルセル (Marcelle) は四世紀末から五世紀末の女性キリスト教信者。410年、蛮族にとられるも抵抗した。
- 19) カタリナ (Catharina) は、五十人の哲学者の前でキリスト教を弁護したと言われる殉教者、聖女である、四世紀初めのアレクサンドレイアのカタリナか、1347-80、教皇グレゴリウス十一世、ウルバヌス六世に貢献した、イタリアのドミニコ会修道女の聖女の、シエナのカタリナか。
- 20) テレサ (Tetesa, 1515-82) はスペインの神秘思想家、聖女。厳格な改革カルメル会最初の修道院を創立。
- 21) この時期フランスの文芸界で「新旧論争」が起こり、「新派」がこのような主張をしていた。